

ボーイスカウト福島第一団 令和3年7月の活動

【ビーバースカウト隊】

7月25日 日曜日。ビーバースカウト（小学校1～2年生のボーイスカウトです）達は、福島県田村市にある入水鍾乳洞へ洞窟探検に行ってきました。毎年、夏の恒例冒険プログラム。天気にも恵まれ気温グングン上昇。田村市の最高気温は32℃でしたが、鍾乳洞内はその半分程度の温度。ひんやりとした空気と水の流れる音がスカウト達を出迎えてくれました。水温10℃の冷たい水に足をさらしながら、ヘッドランプの明かりを頼りに、洞窟の奥深くを目指します。

40分ほどかけて、コースのゴールへ到着。一休みした後、同じルートを戻るスカウト達。大人達よりも元気に地上を目指していました。真夏の地上に無事期間した後は、近くの施設で入浴と昼食タイム。冷えた体を温めてお腹いっぱいになったスカウト達。帰りの車内では眠ってしまったかな？

夏休み中、規則正しい生活を送って、また元気に遊びに行こうね！



【カブスカウト隊】

梅雨明けの宣言があった7月17日、カブスカウト隊（小学3年～5年生の部門）ではカブホリデーと呼ぶカブ隊の宿泊訓練を開催しました。福島市の郊外の立子山自然の家を利用し、小学3～4年生は宿舍泊、5年生はテント泊で一泊2日の訓練です。集合したスカウトたちは組長と次長を中心に2日間の舎営の目標を組毎に決めました。

開会のセレモニーのあとは、キャンプ場にタープを立て折り畳みのテーブルとベンチを置き、自分たちの食堂を作りました。小学5年生たちは今夜泊まる



テントを立てます。コロナ禍の現在ボーイスカウトではそれまでの班(組)で使用していた数人用のテントは使用せず、それぞれの寢室に泊まるという意味から、一人1張りのテントを使用し、密接、密集、密閉の三密を避けキャンプを行っています。組毎に協力し合いこれまでに練習をしてきたタープの立て方や、テントの設営方法を思い出し全員でキャンプサイトを作りました。

今回使用したテントは日本生命財団から寄贈を受けたアメリカ製のバックパッキングテント(担いで持って行ける位軽量のテント)MSRエリクサー2という2人用のテントを初めて使いました。テントの設営も簡単でとっても素敵なテントでした。今度ボーイ隊を中心にキャンプでは活躍してくれる頼もしいテントと、もう一方長期のキャンプでもびくともしない小川テント製のがっちりとしたタープも合わせて2張り寄贈いただきこちらも初めて使う初張りをおこないました。



おやつ休憩のあとは夕食のメニュー、カブ丼セット作りに挑戦しました。タマネギと糸こんに、牛肉を使って牛丼の具を作ります。ご飯は飯ごうでたきますが、その前に使う飯ごうとお鍋、やかんにクレンザーを塗って使ったあとのすすがきれいに落ちるようにするコーティングを習い、みんなで実践しました。お米を研ぎ、水に浸したあと計量して飯ごうへ、水加減も学びよいよ火にかけて

飯ごう炊さんです。牛丼の味付けはお酒、醤油、みりん、砂糖をを使いました味付けだけはデンリーダー(組のおかあさん薬の保護者)にお願いしました。予定していた時間より大分オーバーしてしまいましたが、おいしい牛丼と味噌汁、キュウリの味噌付けサラダができ上がり、みんなでおいしくいただきました。

今回のカブホリデーには18名のカブスカウト、5名のリーダー、3名のデンリーダーのほかボーイ隊から派遣されているお兄さん役のデンコーチ1名、高校生部門の女子ベンチャースカウト1名と日帰りでご協力いただいた保護者、宿泊もしてくれた保護者あわせて31名の参加者で行いました。デンコーチ、ベンチャースカウトも数年前のカブスカウトたち、特に国旗掲揚降納ではきっちりとした動作をカブスカウトたちに見せてくれ自分たちの数年後の姿をイメージすることができたかと思います。成長したスカウトが目前にいることはカブ隊長の喜びの一つでもあります。

キャンプ場に夕闇が訪れ、楽しみにしていたキャンプファイヤーが始まりました。副長を先頭に全員が火「山賊のうた」をうたいながらのキャンプファイヤー場に入場します。火の神に扮した隊長の静かなお話のあと火の神からいただいた火のトーチを持った副長がみんなの前を歩きながらキャンプファイヤーに点火します。赤々と燃える炎を見ながら歌を歌ったり、ボーイスカウトのレールを習ったり、アクションソングでは



なくなった前回委員長の十八番だった「鬼のパンツ」や副長の得意技「アブラハムと7人の子」を踊ったり楽しい時間はあっという間に過ぎていきます。今日のキャンプ場を使わせていただいた立子山の自然と火の神に感謝をしながら楽しいキャンプファイヤーをみんなで行えました。



翌日は6時に起床しみんなでラジオ体操体操をしたあと、食堂で朝のメニュー「カプセルフサンド」。パンとハムレタス、キュウリ、トマト、ゆで卵、牛乳で自分でサンドイッチを作ってくださいます。

「自分のことは自分でします」ここでもカプ隊のさだめの実践です。好き嫌いをせず食べ物に感謝をして「いただきます」「ごちそうさまでした」をはっきり言って感謝の心を示します。カプ隊ではボーイ隊以上のスカウトが自ら信仰心を高めるために

スカウト自身が行う「スカウト ウォン サービス」は行わず、隊長や副長のお話がスカウトたちのところに届くよういろんなお話をします。それは指導者にとっても自分自身の「信仰心を高め、素直な心をもち、今一度自分を振り返ることにもつながります。

今回のカプホリデーではチャレンジブック(スカウトたちが自ら挑戦し課題を履修し認定されるとそれぞれのワッペンが授与されるスカウト教育法の一つ「バッジシステム」の項目が記載された冊子)の中の「チームスポーツ」をとりいれたスポーツをおこないました。フットサルの指導もしている副長からルールの説明を受けた後組毎に得点を競い合いました。最後のプログラムはキャンプサイトの撤収「轍営」です。朝から30℃を超える



猛暑の中隊長から「轍営は次のキャンプの設営である」説明を受け全員で分担しながら轍営を完了しました。最後の閉所式ではカプホリデーの目標に向かい頑張った組に「優秀組旗」が授与され次の集会まで組旗につけることが許されました。優秀組旗の授与を祝して前員で祝声「ウオー」の三唱と答礼、連盟歌斉唱、国旗降納を行い、組毎に「なかよしの輪」(カプスカウトの集会でははじまりとおしまいに組の前員がなかよしの輪という儀式?を行います)を行い解散しました。このおしまいの「なかよしの輪」の声が大きくなるとは、今回のプログラムにおいてスカウトたちが満足して集会を楽しめたか?の一つの判断基準にもなります。今回のなかよしの輪、とっても元気よく大きな声でした。

【ボーイスカウト隊】

7月24日。ボーイスカウト（小学校6年生から中学校3年生）隊の隊キャンプが福島市郊外のつつじが森キャンプ場ではじまりました。今回は6名の参加者。開会式のセレモニーです。参加者は中3が1名、中2が5名。それぞれのテントを設営。モンベルのスクリーンテントと新しいMSRエリクサー2の試し張り。その後は各人に火起こしと合わせて夕食準備です。メニューはカレーかな？

ソーシャルディスタンスをとりながらモグモグと黙食です。メスティンと固形燃料を使っの自動炊飯も皆うまくいきました。

キャンプファイアーの様子です。火を囲んで色々な事を話しました。



